

1 単元名 「雪わたり」の魅力を探して伝えよう

2 単元について

(1) 単元の概要

学習指導要領では、次のような位置づけになっている。

【第5学年及び第6学年】

1 「知識及び技能」の指導事項

(1) ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

2 「思考力、判断力、表現力等」の指導事項

C 読むこと

(1) エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

本単元では、『雪わたり』を読み、異世界での紺三郎との関わりを通して、人間である四郎とかん子  
が変容していく様子を読み取り、作品にこめられた作者の思いや、比喩や反復などの優れた表現を味  
わい、物語の魅力を紹介するという活動を設定した。

『雪わたり』は、宮沢賢治によるファンタジー作品である。雪がすっかりこおった日に、四郎と妹  
のかん子は森で白い子ぎつねの紺三郎に出会う。はじめは紺三郎に不信感を抱いていた四郎とかん子  
だったが、森の中での楽しいやり取りを通じて、紺三郎と徐々に打ち解け、幻灯会に誘われる。11 歳  
までの子どもしか参加することができないという、ぎつねたちの幻灯会で、四郎とかん子はぎつねの  
こしらえたもちをたいらげる。このことから、ぎつねたちは人間に信じてもらえたと大喜びし、四郎  
とかん子もまたその姿に感動して、うれし涙をこぼすという内容のストーリーである。物語は、中心  
人物である四郎の目線から語り進められていく。紺三郎は何のために、二人を幻灯会に招待したのか  
や、なぜ 12 歳以上の兄たちが幻灯会に参加することを断ったのかなど、紺三郎側の目線が明確に書か  
れていないため、本文の叙述から丁寧に読み解いていく必要がある。そのために、本単元では、ぎつ  
ねに対する 2 人の気持ちの変化を読み解くことで山場を見つけたり、その山場を手がかりにして、作  
者が伝えたかった思いについて考えたりすることで、子どもたちを作品の主題に迫らせたい。本作品  
は、1921 年から 1923 年にかけて雑誌に掲載された童話である。掲載時から 100 年もの年月が経過し  
ているため、言葉の変化も少なくない。例えば、本文に登場する「あんまり」や「ぜんたい」、「まる  
で」などは現在の用法とは異なる意味で使われている。こうした言葉の違和感に着目していくことで、  
自分が普段使う用法と比較して考える意識をもたせたい。また、本作品では直喩や暗喩などの比喩表  
現が多用されていることで、より『雪わたり』の世界観を美しいものとして描く効果があることを子  
どもたちに感じ取らせたい。そのために、本文中の比喩表現に着目する際、比喩表現を使わなかつた  
ときとの差異から、比喩を使うことの効果を感じ取らせたい。そして、子どもたちが今後出会う物語  
文の中で、進んで比喩表現を見つけ、そのよさを味わうことのできるような力を身につけさせたい。

第 1 次では、音読や意味調べを行い、疑問や学習を深めたいことを中心に初発の感想を書く。単元  
の見通しを持ち、感想の交流をしながら学習問題を立て意欲化を図る。

第 2 次では、本文の比喩表現や反復表現に着目し、それらが作品に与えている効果について考える。  
また、見つけた山場を手がかりとして、作者が『雪わたり』を通じて伝えたかったことを考え、主題  
に迫る。

第3次では、第2次で捉えた物語における表現の工夫や、主題など、テーマを絞って『雪わたり』の魅力を伝えるという言語活動を設定する。物語を通じて自分が最も魅力を感じた部分を選択して、カレンダーを作成し、その理由を紹介し合う。同じ作品でも、読む人によって感じ方が異なることに物語のおもしろみがあることを感じ取らせたい。

## (2) 単元の観点別目標

知識・技能 : 物語の中の比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

思考・判断・表現 : 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。また、文章を読んでまとめた意見や、感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

学びに向かう力、人間性等 : 進んで物語の中の比喩や反復などの表現、登場人物の心情の変化や、主題について考え、他者と共有しようとしている。

## (3) 児童の実態と指導上の留意点及び合理的配慮 【3組 米石学級 在籍32名】

本学級の児童は、これまでの「いつか、大切なところ」や「大造じいさんとがん」の学習において表現の工夫や山場、登場人物の心情の変化等について考えたり、話し合ったりしてきた。本単元「雪わたり」は、これまでよりも長文であり、独特の表現をたくさん取り入れた物語文なので、焦点化して考えたり話し合ったりすることが難しいと考えられる。児童の考えや話し合いの方向性が明確になるように、学習問題や発問を工夫して設定する必要がある。

自分の考えをノートに書くことが苦手な児童には、個別に関わって助言し、その後のグループでの話し合いに自信を持って参加できるようにしていきたい。

## 3 研究仮説との関連

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を高めることができるだろう。

② 自ら「問い」を発見し、解決していく言語活動を設定する。

音読を大切にするために、家庭学習による耕しの時間を多く設け、感想が書けるようにする。その感想をもとに疑問や深めたいことを整理し、学習の見通しを持たせる。自分たちの感想をもとにした学習計画なので、単元を通しての学習の意欲化を図ることができると思う。

また、山場、表現の工夫、主題の学習の各終末には学習の感想を書いておくことで、第3次の魅力を紹介する活動につなげられるようにする。

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができるだろう。

④ 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

少人数での話し合いや、全体で一斉にノートを見て回る活動を積極的に取り入れる。それによって共感や疑問が生じ、その後の話し合い活動に一人一人が意欲的に参加できると考える。また、学習が停滞している児童にとっても、友達の考え（ノート）をヒントにし、自分の考えを持つきっかけとすることができる。

4 指導計画（全9時間扱い）

次	時	学習のねらい	児童の学習内容と評価
第1次	1	・「雪わたり」の読み聞かせをし、語句の意味調べをする。	・意味の分からない言葉や表現に線を引きながら、読み聞かせを聞く。 ・家庭学習で「雪わたり」の音読を開始する。 評 言葉をたくさん探し、積極的に辞書で意味を調べている。 【態】（ノート・発言）
	2	・「雪わたり」の朗読を聞き感想を書く。	・既習である物語文「いつか大切なところ」「大造じいさんとがん」の学習を想起し、観点を持って感想を書く。 （登場人物・気持ちの変容・やま場・表現の工夫など） 評 観点を明確にして感想を書けている。 【思】（ノート・発言）
	3	・単元とびらを読んで、学習の見通しを持つ。 ・感想の交流をし、学習問題を整理する。	・最後に紹介文を書くことを確認し、物語の魅力を探しながら学習を進めることを知る。 ・魅力を探すには、どのような学習問題が必要か、感想をもとに話し合う。 ・物語全体に触れながら「誰が、何をして、どうなった話」という観点でミニマルストーリーを書いて伝え合う。 評 印象に残ったところや疑問点を、友達と交流することで広げ、問いを立てている。 【思】（ノート・発言）
第2次	4	・登場人物について確認をする。 ・物語の設定やできごとについて読む。	・登場人物について確認する。 ・四郎とかん子がきつねに会えるのはどんな時なのか確かめる。 ・森の中でおこった2回のできごとを確かめる。 評 叙述に基づいてできごとを整理したり、ファンタジーの特徴的な構造に気付いたりすることができる。 【知】（ノート・発言）
	5	・物語の最初と最後の場面で変容したことを確かめる。 ・「やま場」の場面について話し合う。	・四郎とかん子からみたきつねについて、変化したことを人物の会話や行動から考える。 ・登場人物の気持ちが大きく変容した「やま場」はどこかを考え、話し合うことで、物語の魅力を探す。 ・最後に学習の感想を書く。 評 叙述に基づき、登場人物の相互関係や心情の変化を読み取っている。 【知】（ノート・発言）
	6	・表現の工夫について、思ったことや、どのような効果があるか考えたことを話し合う	・家庭学習で、表現の工夫の部分を探しておく。 ・表現の工夫を分類し整理する。（リズム・比喩・色彩など） ・表現の工夫の効果について考え、話し合う。 ・最後に学習の感想を書く。 評 物語に使われている表現の工夫や、その効果について考えている。 【思】（ノート・発言）

	⑦ 本時	・登場人物どうしの関係について考えたことを話し合う。	・きつねが登場する物語「きつねのおきやくさま」や「ごんぎつね」を想起し、人間ときつねの関係について考える。 ・「雪わたり」ではどうだったかを考える。 ・登場人物の関係を考えながら読むことで、物語を読む楽しさが増すことを感じる。 ・最後に学習の感想を書く。 評 物語全体から、登場人物同士の関係について考えている。 【思】(ノート・発言)
第3次	8	・「雪わたり」という物語の魅力について紹介文を書く。	・これまでノートに書いてきた感想を参考にし、物語のどこに魅力を感じたのかを話し合う。 (登場人物の関係・気持ちの変容・表現の工夫など) ・「雪わたり」の中で、一番印象に残っている一文を探し、カレンダーを作成する。 ・選んだ理由を説明できるように、ノートにメモをする。 評「雪わたり」の魅力について考えたことをわかりやすくまとめて話ができる。 【思・態】(作品・ノート・発言)
	9	・友達と紹介文を読み合い、着目点や表現のよさなどを見つける。	・発表会を行い、友達の作品のよさを発見しながら聞き合う。 評「雪わたり」の魅力について友達に伝えたり、興味深く友達の発表を聞いたりしている。 【態】(紹介文・発言)

### 5 本時の指導 (7/9)

#### (1) 目標

- ・登場人物同士の関係について考え、物語によって捉え方が異なることに気づき、読む楽しさを味わうことができる。

#### (2) 仮説との関連

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができるだろう。


#### ④ 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

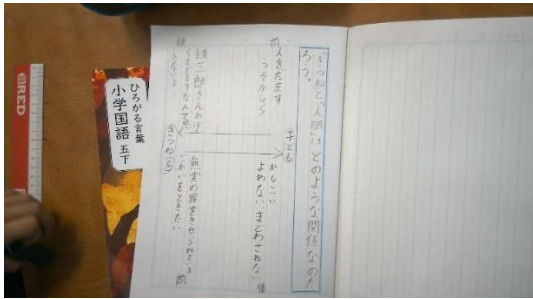
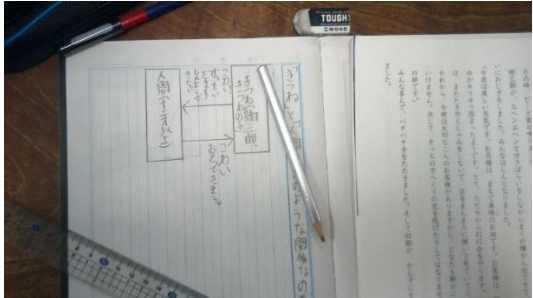
本時では「雪わたり」の主題ともいえる、人間ときつねの関係性の捉え方に焦点を絞って授業を進める。「雪わたり」の登場人物の気持ちの変容を前時で学習したが、「きつね」と「人間」という観点で広く捉え、一般的な物語とも比較する。「きつね」に対する自分の考えを、友達の考えと交流させることで、様々な捉え方があることを感じ、そこに物語の楽しさを味わうことができると考える。そのために、少人数で話し合ったり、全体で意見を交流したりする場面を工夫して設けていく。

#### (3) 展開

◎印は、仮説との関連  
評(評価) 手(手立て)

学 習 内 容	授 業 の 実 際 と 考 察	時 配
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">           実 際 の 児 童 の 様 子         </div>	( )は実際に かかった時間
1 本時のめあてをもつ。 物語の中で「きつね」と「人間」はどのような関係なのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きつねが出てくる物語の魅力について考えようという見通しをもたせた。</li> <li>・単元初めの感想をもとに、自分自身のきつねへの印象を考えさせて意欲をもたせた。</li> </ul>	5 (5)

<p>2「雪わたり」での登場人物の関係性について整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめはきつねのことをこわがっていた。</li> <li>・きつねは人をだますって思った。</li> <li>・紺三郎のことを信じてだんごを食べたから、最後はきつねを信じたってこと。</li> <li>・きつねも信じてもらって喜んでた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時でおさえたやま場について考える学習を想起させ、四郎とかん子・紺三郎ときつねの子たちの関係について整理させた。</li> </ul> <p>手 既習の掲示資料を作成しておく。</p> <p>◎全体で確認した。</p> 	<p>6 (10)</p>
<p>3 これまで読んできた物語の中での「きつね」について想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きつねのおきゃくさま」では、はじめはひよこたちを食べようとして悪いきつねだったけど、最後は命を懸けて守ってあげた。</li> <li>・ひよこたちはきつねを神様みたいだと思っている。</li> <li>・「ごんぎつね」では、いたずらばかりしてたけど悪いきつねじゃなかった。兵十のためにいろいろ届けてた。</li> <li>・村の人はいたずらばかりのごんを嫌っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージしやすいように物語の挿絵を準備した。</li> <li>・「雪わたり」以外の物語もおもしろかったことを想起させた。</li> </ul> <p>手 本時前より、きつねが出てくる物語を並行読書できるように準備し、児童にふれさせておいた。</p> <p>◎想起しやすいように、グループで短時間で確認させた。</p> <p>◎全体で確認した。</p>	<p>10 (5)</p>
<p>4「雪わたり」ではきつねと人間はどのような関係なのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四郎とかん子は最初はきつねは人をだますと思っていた。</li> <li>・紺三郎はきつねが人をだますのは嘘だと言った。</li> <li>・四郎とかん子に信じてもらえてきつねたちは嬉しそうだった。</li> <li>・人間のこどもときつねのこどもの話だけど、大人は違うかもしれない。</li> <li>・兄さんたちは幻灯会に来られないから、何かありそう。</li> <li>・大人のきつねに会ったら目をつぶるって言ってたから、大人のきつねはこどもと違って人間をだますのかも。</li> <li>・大人のきつねは人をだますけど、きつねの子は人間と仲良くなりたいと思っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四郎とかん子、紺三郎と子ぎつねたちの関係を相関図で整理した。</li> <li>・「雪わたり」に出てくる人間は、四郎とかん子だけではないことも気付かせた。また、きつねの大人が出てこないことにもふれた。</li> <li>・人間ときつねの関係図をもとに、言葉を書き加えて考えられるようにした。</li> </ul> <p>◎個人で考えた。</p> <p>手 関係図に書いて考えるのが難しい児童に声をかけ、教師が助言しながら少人数で集まって考えさせた。</p> <p>◎クラス全員で、それぞれのノートを見合って、考えをつけ足したり、広げたりした。</p> <p>◎代表児童のノートをもとに全体で話し合い、考えを深めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板を活用した。</li> </ul>	<p>20 (20)</p>



5 本時の学習の感想を書く。

- ・ ぎつねはやっぱり人をだまさないと思う。
- ・ ぎつねは人をだますのか、だまさないのか考えるのが楽しかった。
- ・ 友達の考えが、自分の考えと違うのを知って驚いた。
- ・ ぎつねと人間のことを考えて、深く読むとおもしろい。

- ・ 根拠があるかを大切にし、様々な考え方を尊重できる雰囲気づくりをした。

- ・ 人間はぎつねのことを、人間を化かす動物だと思っている。信用していない。
- ・ ぎつねは人間のことをこわいと思っている。何をされるかわからない。
- ・ ぎつねの子どもは、人間をだましていないと信じてほしいと思っている。変なうわさを流さないでほしい。
- ・ 四郎のお兄さんたちはぎつねのことを信じていないけど、四郎とかん子は信じている。
- ・ ぎつねの子どもは、四郎たちに信用してもらったから喜んでいる。

- ・ ノートに本時の学習の感想を書いた。
- ・ 発表して感想を伝えた。

4  
(5)

- ・ 雪わたりという物語を深く知れた気がする。
- ・ 宮沢賢治さんがどう思っているのか、直接確かめてみたい。
- ・ 他のいろいろな物語の人物の関係を調べて、その人がどんな人なのか考えてみたい。
- ・ 関係を調べていて、いろいろな妄想が広がって楽しかった。宮沢さんが何を考えているのか不思議。
- ・ 登場人物の思いや考え方によって物語が変わると思う。

評 登場人物同士の関係について考え雪わたりの魅力にふれている。

【思】(ノート・発言)

(4) 板書



6 本単元の成果 (○) と課題 (●)

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を高めることができるだろう。

② 自ら「問い」を発見し、解決していく言語活動を設定する。

○単元の初めに感想の交流を通して、学習問題を自分たちの話し合いによって整理したことで、学習計画が明確になり、意欲的に活動することができた。

○山場・表現の工夫・主題について明確な課題意識をもって学習し、時間ごとに感想を残すことで、自分が物語のどこに魅力を感じているかが明確になった。それによって、第3次の魅力紹介文につなげることができた。

○第3次の魅力紹介において、自分が魅力を感じた部分にある表現を短い言葉と絵で表現した。発表会では、授業で取り上げなかった表現や場面の発表もあり、一人一人が自信をもって発表したり、友達の発表に興味深く聞いたりする姿が見られた。また、授業でふれなかった場面の登場人物の気持ちを想像して話し合いに発展する場面も見られ、「雪わたり」の物語の楽しさを味わう様子が見られた。(資料1・2)

●山場・表現の工夫・主題などの時間を1時間ずつに区切って学習したので、物語のすべての場面にふれられず、読みを深めることが十分にできなかった。

●本学習の指導では全9時間の構成だったが、指導書では6時間の構成になっている。1年間の国語科の学習において、どの単元のどの部分に重点をおいて言語活動の年間計画を立てていくかが今後の課題である。

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができるだろう。

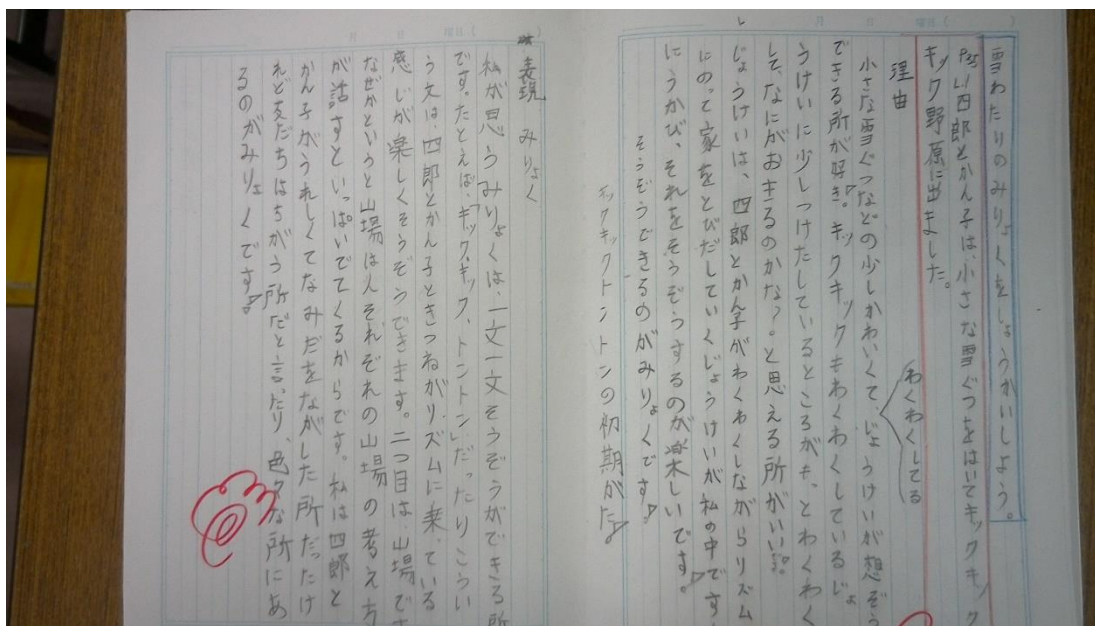
④ 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

○単元全体を通し、少人数での伝え合いの活動を積極的に取り入れた。少人数での短時間の意見の交換や、一斉にノートを見て回る活動、グループで一つの意見にまとめる話し合いなど、学習のめあてにそった活動を取り入れることで、児童が自分の考えをもったり、考えを深めたり、友達の考えに興味深く聞いたりすることができた。

- 学習が停滞する児童にとって、伝え合い活動は自分の考えをもつきっかけとなった。すべての児童が意欲的に参加できる授業になった。
- 45分の授業の構成の中で、伝え合い活動の時間を十分に確保できないこともあった。個人・少人数・全体での時間配分を検討して授業に臨まなければならない。
- 授業時間内では全員の考えを把握できないので、ノートに記述したことにしっかりと目を通して、伝え合い活動が効果的になるような学習計画を立てる必要がある。



(資料1) 魅力紹介のための作品



(資料2) 魅力を紹介するための原稿